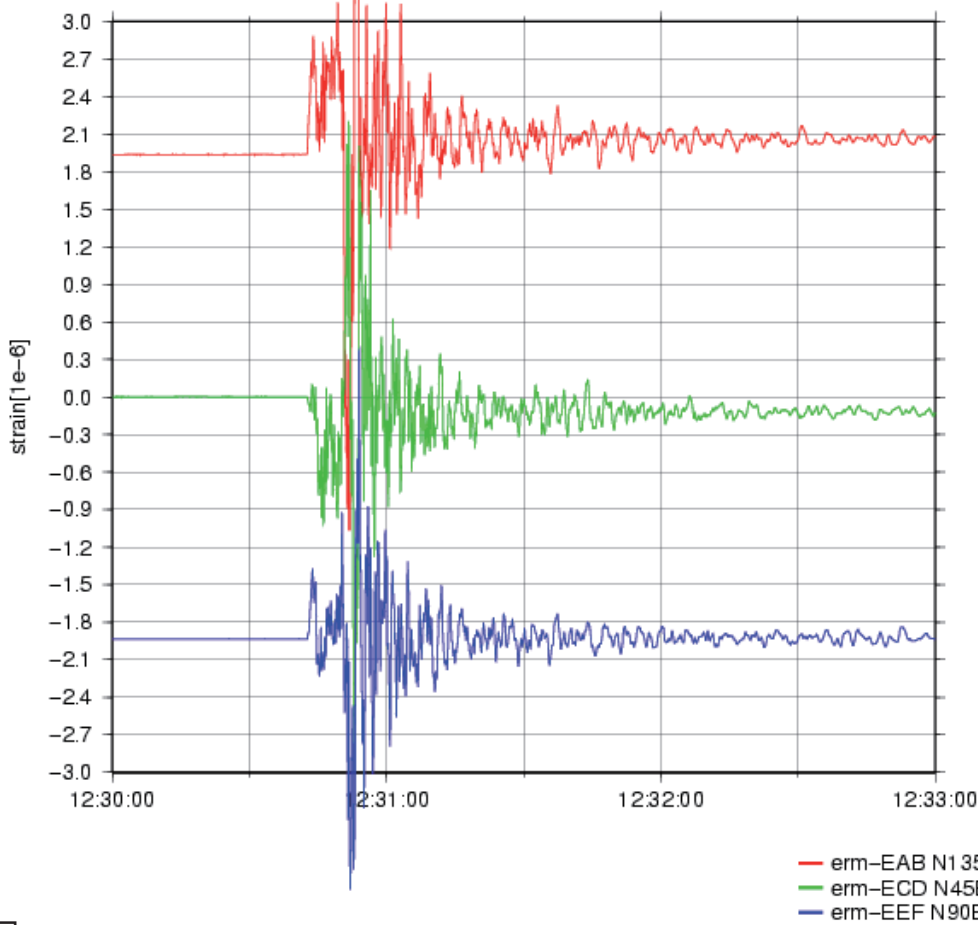
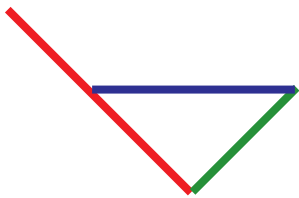


2009 年 6 月 5 日十勝沖地震により観測された歪地震動と地震時歪ステップ

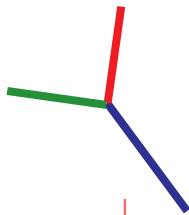
えりも



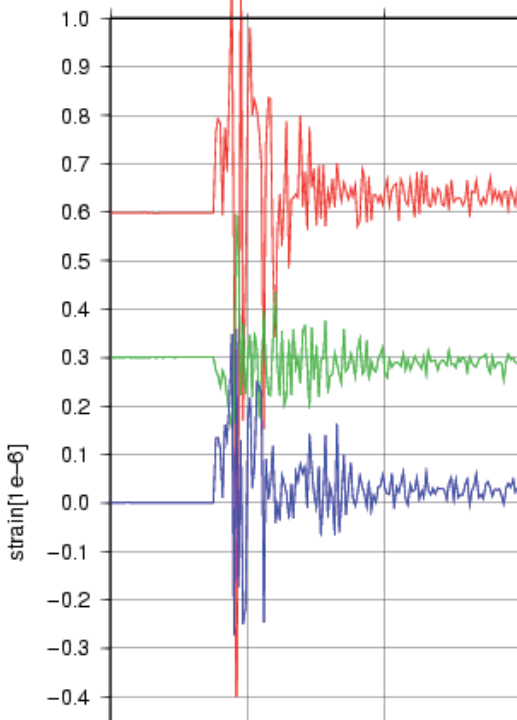
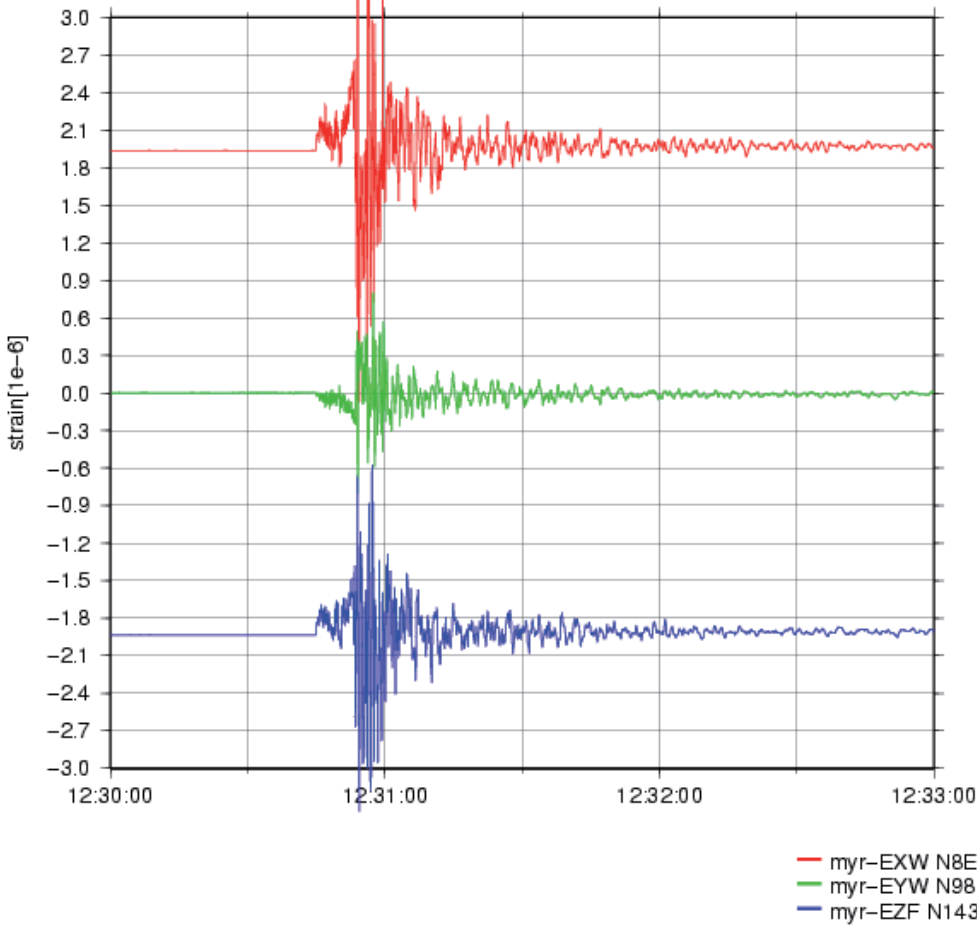
えりもの歪観測（横坑）



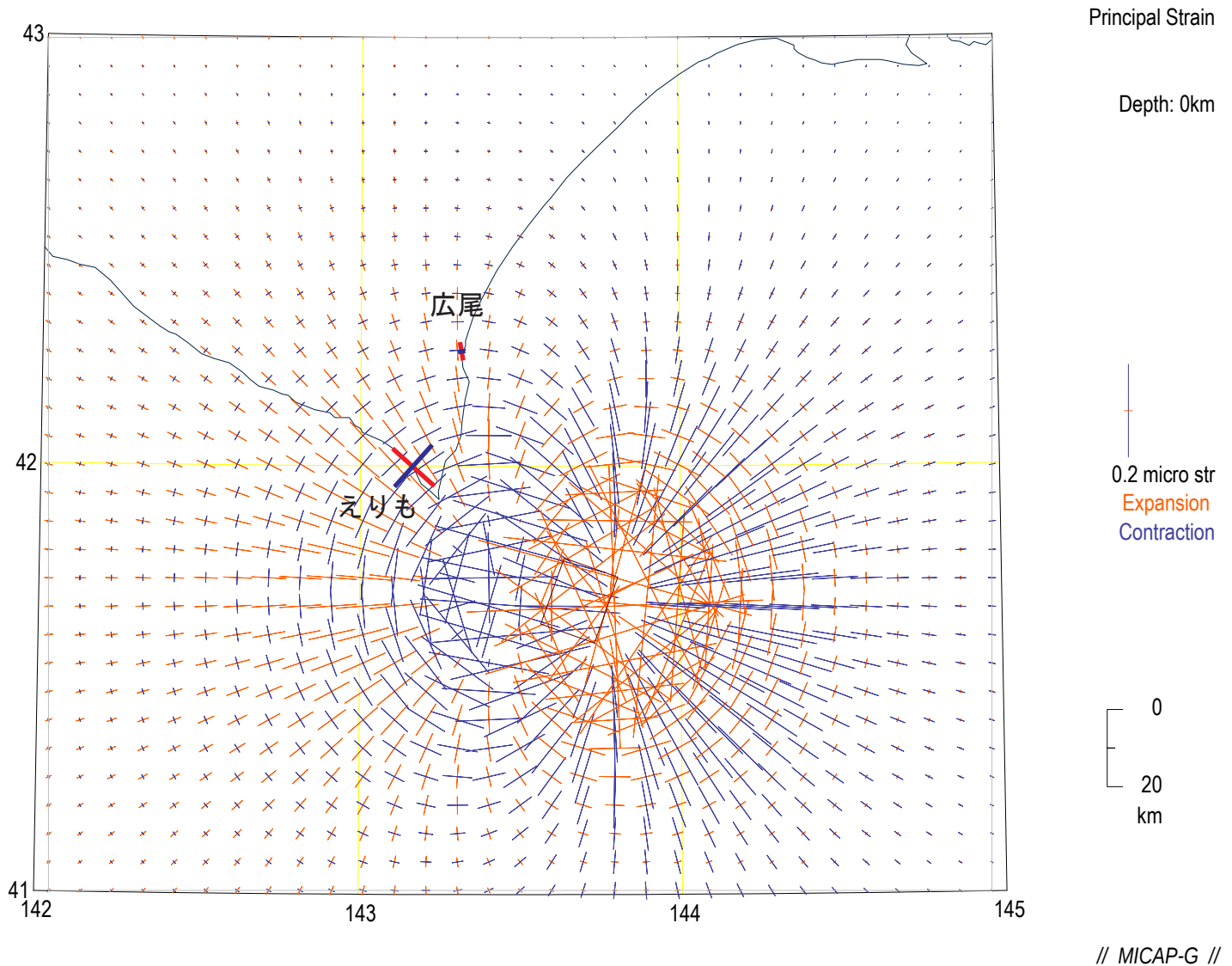
広尾の歪観測（横坑）



広尾



観測された地震時歪変化と断層モデルより計算された歪変化の比較



えりもで観測された歪ステップから最大主歪は $0.12\text{E-}6$, 312° , 最少主歪 $-0.12\text{E-}6$, 222°

広尾で観測された歪ステップから最大主歪は $0.04\text{E-}6$, 170° , 最少主歪 $-0.015\text{E-}6$, 260° であることが分かった。

防災科学技術研究所地震メカニズム情報（走行 214° 、傾斜角 17° 、すべり角 103° ）を用いて断層モデルを作成した。断層長・幅とも 15 km、深さ 30 km、地震モーメント 4.1×10^{18} Nm (Mw6.4) からすべり量を 0.46mとして最大主歪（**伸び**）と最少主歪（**縮み**）を推定した。計算には気象庁気象研究所で開発された MICAP-G を用いた。上記結果にえりもと広尾で観測された最大主歪（**伸び**）と最少主歪（**縮み**）を合わせて表記した。

観測歪は計算歪と良く一致していることが分かる。